

## 平成 20 年度 北東学連活動報告

平成 20 年度北東学連幹事長 藤島 陽平 (北大 3)

### 1 平成 20 年度北東学連幹事

幹事長	藤島 陽平 (北海道 3)
副幹事長	赤平 悠 (岩手 2)
事業部長	吉田 昌弘 (東北 2)
事務局長	清水 弘太 (北海道 3)
会計	多田 伊来 (岩手 2)
広報部長	関野 雄人 (岩手県立 2)
会計監査	奥山 美穂 (宮城学院女子 2)

### 2 平成 20 年度行事

2008.

- 6.1 東大大会 (インカレロングセレクション 1 本目) 「葛山」
- 8.16~8.19 北東学連夏合宿 (愛知)
- 8.17 北東インカレ (インカレロングセレクション 2 本目) 「作手高原」  
第 1 回北東学連総会
- 9.14 第 3 1 回東北大大会 「愛島」
- 9.21 第 3 1 回北大大会 「楓陰桜山」
- 10.21 第 3 回岩手大学・岩手県立大学大会 「外山」
- 11.2 第 2 回北東学連総会 (愛知県野外教育センター)
- 11.3 愛知スポレク (インカレミドルセレクション 1 本目) 「作手高原」
- 11.16 筑波大大会 (インカレミドルセレクション 2 本目)

2009

- 3.19 第 3 回北東学連総会 (足柄)

### 3 活動内容

#### ・ インカレセレクションについて

今年度はロングに関しては、例年通り「東大大会」「北東インカレ」の 2 本制を採用した。東大大会が今後もセレにふさわしい規模で開催されるのならば、使用させていただくことになるのだと思われる。改めて、東大 OLK の方々にはお礼を申し上げますとともに、更なる発展を期待しています。

問題は、ミドルに関してである。北東学連は大学間に距離が離れているため、セレとなる大会は公平に参加できる大会である必要がある。しかし、近年はどの大会も規模

の縮小、そして何より大会情報の遅延が起こっており、この煽りを受ける形で、どの大会をセレに採用するかで議論が続くこととなった。結果として、インカレロング翌日である「愛知スポレク」と2週間後の筑波大学大会の2本制が採用された。例年ならば、筑波大学大会のみとなるのであろうが、大会開催情報の開示が遅かったこと、そして何より、インカレロング翌日にセレを行うことで遠征費用を削減できることが決めてになった。しかし、議論にも上がっていたが、これは公平性に問題があったかもしれない。選手権クラスと一般クラスの参加者では疲労が違うためである。特に問題が起きなかったのによかったが、いずれにせよ、北東学連にとって、セレクションの開催は永遠のテーマになるだろう。近年は大学大会の開催も不安定になってきており、何が起きてもいのように、独自でセレを開催できる体制の整備が必要なのかもしれない。現在、組織としては「諮問委員会」があるが、実際は東北大OBの松澤氏1人に頼りきりであり、今後は諮問委員会の充実が鍵になると思われる。

#### ・ 北東インカレ

北東学連は昨年「矢板幸岡」にて立入禁止エリアである養鶏場に進入するというトラブルを起こしてしまった。これが矢板トレイン全面クローズになった原因である。今年度はこの失態を踏まえ、より厳重に北東インカレを行うこととなった。結果として、大きな問題を起こすことなく無事開催できた。ただ、これは運営者の方々の努力のおかげであって、北東学連全体として取り組んだわけではなかった。今更ながら、反省している。こういうことはいかに風化させないかが大切である。我々は他人の土地を使用して始めて成立するスポーツである。しかし、実際は、このことをあまり深く考えていないと思う。事件を起こした東北大には再発防止のための誓約書を作成させたようであるが、東北大にとどまることなく北東学連全体で共有するなどをすべきであった。この原稿を書いている時点では、まだアクションを起こしていないが、残りの一年間できちんと資料を作成して共有する制度を作ります。

#### ・ 地区学連加盟費

今年度から1人千円ずつ加盟費として徴収することとなった。使用目的は上にも書いたが「独自セレクション開催積立金」である。ここ最近では以前の積立金を切り崩して、開催を行っていたようであるが、資金に余裕がなくなったということで徴収を再開した。これは前年度の幹事の決定であり、それに従ったというのが現状である。ただ、いつまで集めるか？使用目的は、独自セレクションの場合だけでよいのか？など問題が多々あり、私個人としては、よくわからない費用となってしまっている。一年間でおおよそ10万円以上近く集まるため、数年もプールしておくことは、それはそれで問題となるだろう。夏合宿の費用の足しにするなど、別の使い道を探していくのがよいと思うが、これは今後の課題である。

- ・ 終わりに

一年間北東学連に関わって感じたことは、不透明な組織だということである。正直申し上げて、誰が何をやっているのかがわからないことが多かった。もちろん、幹事長がわかっていなかったとしても、それぞれが自分の役割を果たしていれば問題はないのであろうが、働きぶりには疑問を持たざるを得ない場面が多かった。もちろん、それを徹底できなかつた私の手腕に問題があるのはわかっているが、例年このような状態が続いてきたのではないかと思っている。幸いなことに私は、もう一年学生として関わることができるので、今年度残した課題を少しでも解決していきたいと思う。少なくとも、すべての引継ぎ資料をまとめて、どの幹事が何をやるのかははっきりさせて下に残すつもりである。